

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：16201

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K13183

研究課題名（和文）パフォーマンス評価を取り入れた家庭科製作学習の授業モデルの開発

研究課題名（英文）Development of a lesson model for home economics handcraft learning incorporating performance task and assessment

研究代表者

一色 玲子 (Isshiki, Reiko)

香川大学・教育学部・准教授

研究者番号：30582241

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：1)日本と対象国の家庭科製作学習を通して育成する資質・能力の比較，2)対象国の製作学習の授業実践の視察調査と教師への聞き取りにもとづく実態把握，3)対象国の教員養成校の製作学習に関するカリキュラムの調査及び教員養成テキストの分析，4)対象国の学校現場で使用される製作学習のワークブック及び指導書の分析，5)パフォーマンス評価を取り入れた家庭科製作学習の授業モデルの開発を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって，1)北欧の手工教育が重視してきた問題解決学習の方法論を，パフォーマンス評価から捉え直すことにより，日本の家庭科製作学習の評価に，2)実践的・体験的学習を重視する家庭科の教科的特性からくる評価の難しさを解決する一助となるであろう点に学術的意義がある。
活用型学力の育成を目指す現在の学校教育において，パフォーマンス評価を取り入れた授業モデル開発は実技を含む教科の評価方法の一例となる課題に取り組んだという点に社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：1) Comparison of the qualities and abilities to be developed through home economics handwork learning in Japan and the target countries, 2) Observation of classroom practice of handwork learning in the target countries and interviews with teachers to grasp the actual situation, 3) Curriculum survey of teacher training schools and analysis of teacher training textbooks in the target countries, 4) Analysis of workbooks and instructional materials for handwork learning used at schools in the target countries, and 5) Development of a lesson model for home economics production learning incorporating performance assessment. 5) Development of a lesson model for home economics handwork lesson that incorporates performance task and assessment.

研究分野：家庭科教育学

キーワード：パフォーマンス評価 製作学習 手工とデザイン デンマーク 問題解決 家庭科

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 家庭科製作学習で育てたい問題解決型学力

現在の中学校技術・家庭 家庭分野では、布を用いた製作学習（以下、製作学習）が実施される機会や時間が縮小されている現状がある。しかしながら、製作学習のような素材や道具と対峙し、生活に役立つものを製作する学習は、調理学習と同様に、生徒が教科学力を育む上で欠くことのできない学習形態であるとする。その中で研究上の課題とされるのは、製作学習を通して生徒がどのような力を身に付けているかを実証的に追究することにある。2017年改訂の中学校学習指導要領では、問題解決的な学習を一層重視することが明記されている。しかしながら、製作学習は指導方法の工夫とその成果についての実践研究が多く、製作学習を通して育成する能力や問題解決的な学習を評価の視点から追究した研究は、研究開始当初の国内研究においては管見の限り少数であった。そのため、それら育成したい能力を生徒が実際に身に付けることができたかどうかをアセスメントするための評価方法の理論や具体的な評価基準について検討していくことを研究的課題とした。

(2) 北欧諸国の手工科教育の研究、実践を参考にすることの意義

フィンランドの2016年改訂のナショナルカリキュラムでは、各教科で育てたい学力を7つのコンピテンス（資質・能力）で示しており、評価項目に学習者の自己評価を位置づけていることが特長であった。また、デンマークの2015年教育改革においても、ナショナルカリキュラムを全教科コンピテンスレベルで示す大幅な変更を行なった。また、デンマークではコンピテンスの下位項目である知識とスキルについて、より具体的にルーブリック形式で提示されており、一つの教科を通して育まれる複数の能力の具体が示されていることが特長である。これらのことから、北欧諸国では育てたい資質・能力すなわち教育目標と、その評価について、実践的な取り組みをしているといえるため、日本の家庭科製作学習の学習モデルの構築に有用な示唆が得られると考える。以前の若手研究(B) (H24～27年度、課題番号：24730739)調査時は、世界的な学力の転換期であった。PISAの結果の影響を受け、各国の教育改革の中で活用型学力が目標に取り上げられるようになった。フィンランドは従来から活用型学力を重視していたが、先述したようにコンピテンスとして強調された。また、デンマークの義務教育課程（日本の小学校および中学校）では、手芸・被服と木工の教科が合科し、2015年度から手工とデザインという教科が新設された。デンマークでは新たな教科となったことで、これまで以上にデザイン、製作プロセスの中で育成される問題解決的な学力観が強調されていると言える。

(3) 従来から行われていた授業をパフォーマンス評価という視点から捉え直す必要性

パフォーマンス評価とは、従来の学習評価では捉えづらいとされていた複数の項目からなる思考・判断といった学力を動的に捉えようとした評価方法である。中央教育審議会答申(2016)においても、資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが求められている。今後、実際の教育実践に活かしていく上では、育成する能力やその評価基準を提案するだけでなく、それらを具体化した授業を開発する必要があると考える。また、(2)でも述べたように、北欧の手工教育が重視してきた問題解決学習の方法論を、パフォーマンス評価という評価方法から捉え直すことにより、日本の製作学習の実践に示唆を与えるとともに、実践的・体験的学習を重視する家庭科の教科的特性からくる評価の難しさを解決する一助となることが期待できる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、製作学習の問題解決能力の育成とその評価に取り組んでいる北欧の対象国の研究および授業実践を参考に、パフォーマンス評価を取り入れた家庭科製作学習の授業モデルを開発することである。

3. 研究の方法

(1) 日本と家庭科および対象国の関連教科における、製作学習を通して育成したい資質・能力とその評価項目に関する調査を行う。

(2) パフォーマンス評価を取り入れた製作学習の授業実践の視察および聞き取り調査、ワークブック、教員養成カリキュラムやテキストの整理、分析を行う。

(3) 問題解決的な能力の育成を目指し、パフォーマンス評価を取り入れた家庭科製作学習の授業モデルを開発する。特に方法(2)の対象国の製作学習の授業実践の視察やワークブック、教員養成テキスト等を踏まえて、家庭科製作学習のパフォーマンス評価を取り入れた授業モデルの開発を試みる。

研究計画当初は複数の対象国調査を予定していたが、COVID-19 の影響を受け、調査のための渡航が困難な状況が一定期間生じた。そのため、渡航先をデンマークに絞り、計画の見直しを行った。

4. 研究成果

(1) 日本と対象国の家庭科関連教科の製作学習を通して育成する資質・能力の比較

日本、デンマーク、フィンランドの製作学習の評価に関する資料収集・調査をもとに、製作学習を通して育成する資質・能力および評価基準について検討を行った。

教科目標の観点からみると、フィンランドの教科「Craft」とデンマークの教科「Handwork & design」における製作学習は、生活を総合的に捉え、実践的な問題解決を目指す日本の家庭科教育と全く同じ目標を持つとはいえないが、その点を考慮した上で製作学習に共通する目標と評価基準を整理した。

(2) 対象国の製作学習の授業実践の視察調査と教師への聞き取りにもとづく実態把握

2020年2月および2023年11月に、デンマークの国民学校(日本の公立の小中学校にあたる)と教員養成校を訪問し、調査を行なった。デンマークのロスキレ市立ヘダガルデン国民学校を訪問し、アネット・エネマルク教諭による教科「Handwork & design」および「Food science」の授業を参観した。授業参観後に、授業についてのフィードバックや他の製作学習の実践と評価方法について聞き取り調査を行った。エネマルク教諭によると、デンマークにおいては、教師が個々の状況を把握するための評価であり、育てたい学力を身に付けるために授業内で製作物が個別に異なることも特に技能が異なることも問題がないといった評価観を示した。設計、製作過程の個々の思考の把握とフィードバックといった形成的評価を重視していた。

(3) 対象国の教員養成校の製作学習に関するカリキュラムの調査及び教員養成テキストの分析

デンマークの教員養成校コペンハーゲンユニバーシティカレッジを訪問し、教科「Handwork & design」を専門とする養成カリキュラムについて、アン・ベンディックス講師ほか教員2名に聞き取り調査を行った。また、教科「Handwork & design」の教員養成テキストを入手し、記載内容について分析を行った。

(4) 対象国の学校現場で使用される製作学習のワークブック及び指導書の分析

教科「Handwork & design」には必修科目と選択科目とがあり、必修科目は日本でいう小学校3年生から6年生の間に実施する。本研究では、必修科目を参考にした上で、日本の中学校段階にあたる7年生から8年生の間に実施する選択科目「Handwork & design」の製作課題を参考とした。生徒が創意工夫する思考プロセスを重視した学習が取り組まれている。また、実技および口頭試問のための指導書によると、教師が準備した個人あるいはグループで、テーマに沿った製作課題を課している。また、デンマークの指導書やワークブックによると、製作過程はもちろんであるが、学習としての問題解決は主に設計段階にあることが示されていた。また、その問題解決の過程を言語化して分析的、構造的に説明するような課題を課していた。特に科目の最終の試験課題は、パフォーマンス課題の形式を取っており、製作物の設計や口頭試問を含む形式で実施されていた。口頭試問において示すものは、デザイン画やムードボード、製作物を使用する人の詳細(ペルソナ)設定、素材・道具等の選択理由等であった。

(5) パフォーマンス評価を取り入れた家庭科製作学習の授業モデルの開発

問題解決の思考過程の可視化するパフォーマンス評価を作成した。主に対象国のデンマークの実践およびワークブックを参照し、設計段階の可視化と口頭試問を想定した授業モデルとした。

以上が本研究の成果であった。日本の中学校技術・家庭 家庭分野が目指す製作学習の基礎・基本とその活用型学力といった目標・評価レベル、時間数、材料や道具、設備といった学習環境等の課題があり、安易に対象国の形態を取り入れ実践することは難しいと思われる。しかしながら、問題解決の思考を重視するため、パフォーマンス課題を設計段階に限定して実践することは可能であり、家庭科の生活を豊かにするものづくりの学力を支えるための一方法となりうるだろう。

主な参考文献

- ・Hanne Schneider & Stig Pedersen, Håndværk og design - en fagdidaktik, Hans Reitzels forlag, 2016.
- ・Rikke Hyl Dahl Homann & Marlene Muhlig, Håndværk & design: Håndbog til valgfag og prøve, Meloni, 2020.
- ・Rikke Hyl Dahl Homann & Marlene Muhlig, Håndværk og design Klar til prøven, Meloni, 2021.
- ・Ved Lene Pors & Johanne Ridley-Remming, Håndværk & design - valgfag og prøve, Gyldendal, 2021.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 井元りえ, 羽根裕子, 亀井佑子, 神沢志乃, 荒井紀子, 貴志倫子, 鈴木真由子, 一色玲子 | 4. 巻 62(3) |
| 2. 論文標題 全国的な家庭科教員組織における授業実践報告からみた学力の分析 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日本家庭科教育学会誌 | 6. 最初と最後の頁 160-169 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 荒井紀子, 貴志倫子, 井元りえ, 一色玲子, 羽根裕子, 鈴木真由子, 亀井佑子, 神沢志乃 | 4. 巻 64(4) |
| 2. 論文標題 諸外国の家庭科カリキュラムの視点と構造 2010年代の教育改革を背景とした比較考察 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本家庭科教育学会誌 | 6. 最初と最後の頁 244-255 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件／うち国際学会 4件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Reiko Isshiki |
| 2. 発表標題 Comparison of Self-evaluation, Peer-evaluation, and Teacher-evaluation in Lesson Study of Home Economics Teacher Training |
| 3. 学会等名 WALS(World Association of Lesson studies) Conference 2023 (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Reiko ISSHIKI, Shino KANZAWA |
| 2. 発表標題 Performance assessment in home economics education: Focus on contents of clothing |
| 3. 学会等名 Asian Regional Association of Home Economics The 20th Biennial International Congress 2019 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 羽根裕子, 荒井紀子, 貴志倫子, 一色玲子, 井元りえ, 亀井佑子, 鈴木真由子, 神澤志乃 |
| 2. 発表標題 家庭科レッスン・スタディをテーマとした国際会議の成果と課題 協議と共有による国際交流の可能性を視点として |
| 3. 学会等名 日本家庭科教育学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 神澤志乃, 荒井紀子, 貴志倫子, 鈴木真由子, 井元りえ, 一色玲子, 亀井佑子, 羽根裕子 |
| 2. 発表標題 レッスン・スタディによる生活者育成のための探求型授業の開発-消費生活に視点をあてて |
| 3. 学会等名 日本家庭科教育学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Reiko Isshiki, Shino Kanzawa |
| 2. 発表標題 Performance assessment in home economics education: Focus on contents of clothing |
| 3. 学会等名 Asian Regional Association of Home Economics (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Reiko Isshiki, Shino Kanzawa |
| 2. 発表標題 Performance assessment in home economics education: Focus on contents of clothing |
| 3. 学会等名 Asian Regional Association of Home Economics (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|